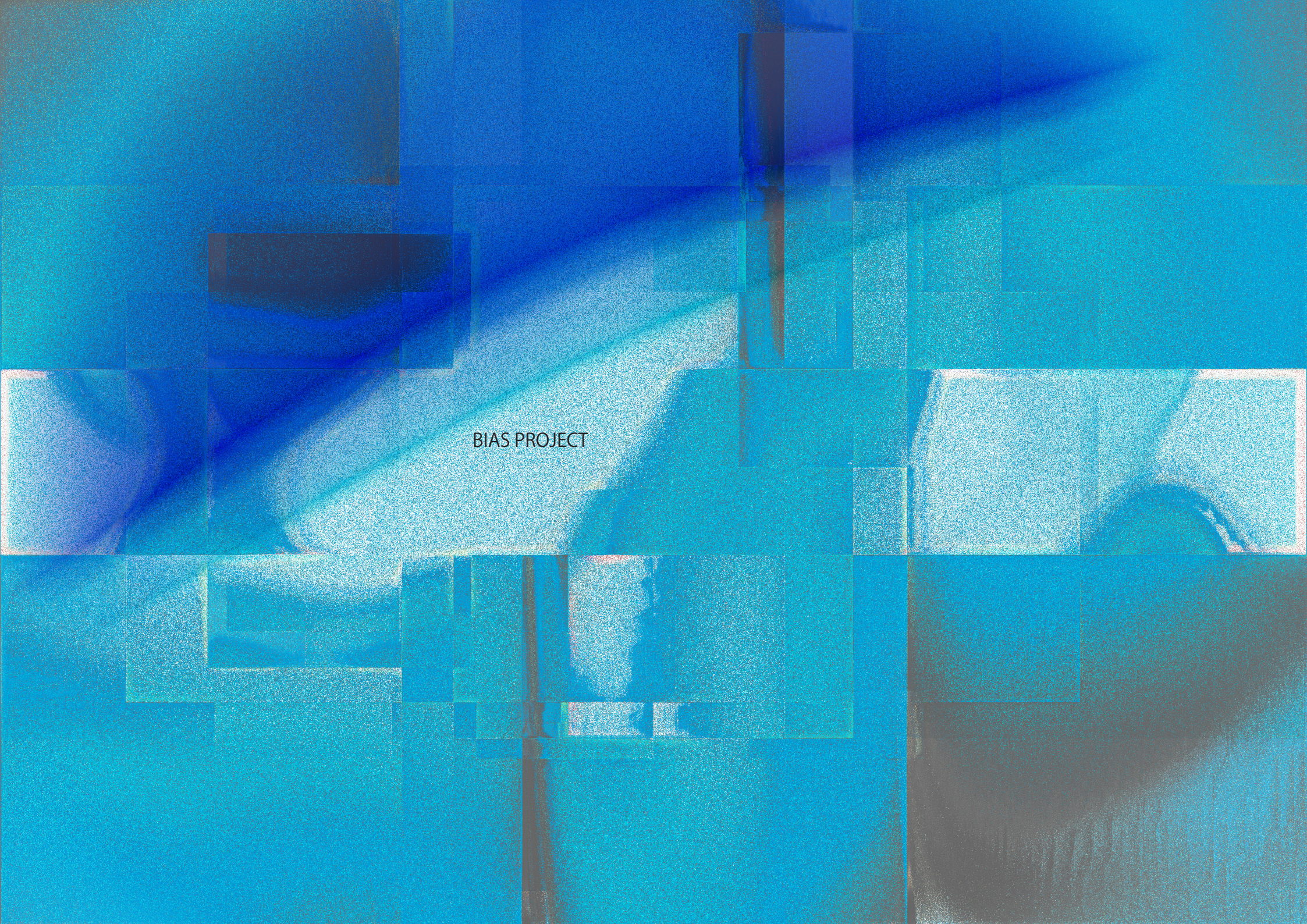

BIAS PROJECT

NAOKI　AOKI/ BIAS


Bias

ショウガイヲアタリマエニ

創造的福祉を作るために

福祉を考えるようになったのは、制度や理念からではなく、家族の現実からだった。障害のある家族を持つことで、世界の見え方が少しずつ変わっていった。家の中では笑いもある。けれど、外に出ると空気が変わる。街を歩くと、他人の視線が少しだけ重くなる。その違和感が日常の中に積もり、やがて「社会って何だろう」と思うようになった。

介護の現場で働くようになっても、同じ構造があった。制度の中では、人の時間や感情が“数字”に置き換えられていく。 就労支援の現場では、A型で月8万円、B型で月2万円前後。どれだけ働いても、生活ができない。「働く」ことが「生きる」につながらない。制度の隙間に人の想いがこぼれ落ちていた。

親から離れることが難しく、結婚も難しい。親の介護が終われば、次は兄弟がケアを引き継ぐ。その循環の中で、障害のある人の未来が家族という小さな単位に閉じ込められていく。社会が支えると言いながら、実際には“家族任せ”になっている。

それを見たとき、制度を批判するだけでは何も変わらないと思った。数字や理念では、誰も動かない。感じることが変わらなければ社会は変わらない。

だから、まずは“表現”という方法を選んだ。障害は理屈だけでは伝わらない。感覚で表現することが重要だと思った。 表現は、説明では届かない場所に届く。理屈は理解をつくるけれど、偏見をほどくのは“感覚”だ。色、間、ズレ——身体が先に受け取るもの。その瞬間、人は考えるより先に“感じてしまう”。そこに、変化の入口がある。

説明は正しさを教える。でも、表現は“共鳴”を生む。正しさで人を動かすのは難しい。その一歩が、偏見を溶かす。当事者だけでなく「社会」そのものを問い直す。障害を語るのではなく、社会の目線をズラす。それがBiasのはじまりだった。

宇都宮一番町店



カワカミコウエイ



カワカミコウエイ



カワカミコウエイ

2025年4月、宇都宮のレンタルスペースで、友人たちを対象にしたワークショップを行った。テーマは「障害の見られ方」。作品の解説、講義、グループワークを通して、障害がどのように社会から見られているかを実験する場にした。

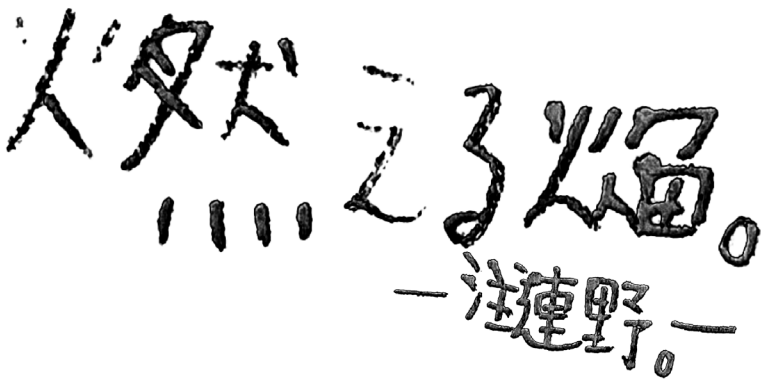
講義を進めるうちに確信に変わった。理屈だけでは、障害を伝えることはできない。理屈ではなく、体感が必要だということを。

家族の小説作品『障害者の頭の中』を紹介したとき、造語のような言葉が持つ“生の意味”が、参加者の心を動かした。「なぜその言葉が出てくるのか」「どんな世界が見えているのか」。質問が次々と生まれ、会話が生まれた。その瞬間、表現の力の強さを実感した。

2025年9月、宇都宮のMYS COFFEEで、一般の人を対象にした第二回ワークショップを開催した。先天性・後天性の障害を持つ家族や友人に、講師として出演してもらった。「障害を持ったからこそ見えること」「障害を持ったからこそ思うこと」。 それぞれの言葉と表情が、会場の空気を変えていった。

参加者の笑顔。講師の緊張と、それを越えた温かさ。 障害が“特別なもの”ではなく、“日常の一部”として感じられた瞬間。そのとき、Biasとしての最初の一歩を確かに踏み出したと思った。

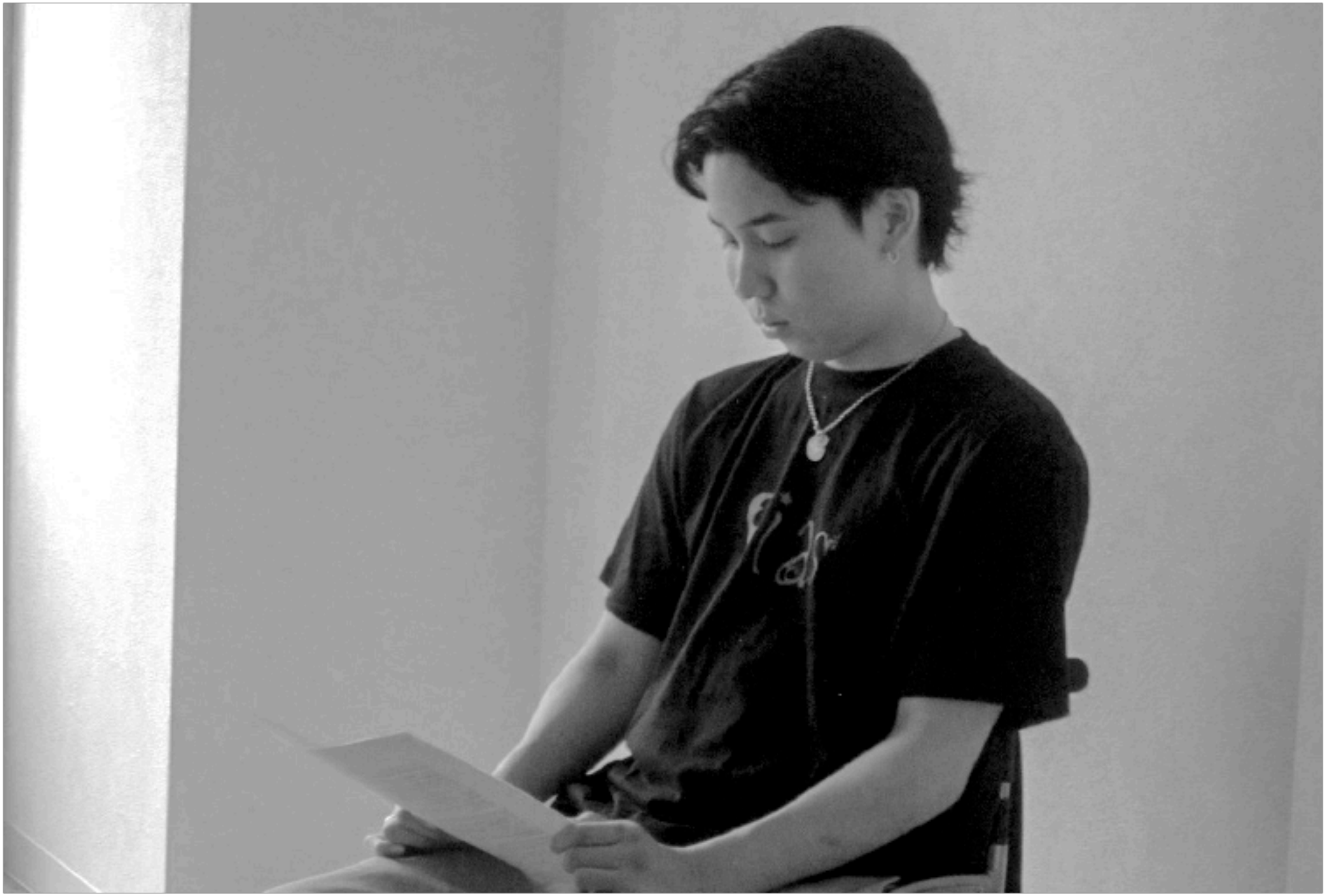
第二部では、家族が書いた小説作品『燃える焔ー中連野ー』を紹介した。 “燃える焔”も“中連野”も、意味はよくわからない。けれど、その「わからなさ」に確かな美しさがあった。言葉を通して社会がずれて見える感覚。その“ズレ”こそが、創造の源だと思った。


燃えろ猫。
—滋連野。—





アオキナツキ



カワカミコウエイ

社会の中で、障害のイメージはまだマイナスが多い。 だからこそ、掛け合わせが必要だと思う。　福祉×スケートボード、福祉×デザイン

福祉×個性。たとえばHERALBONYのように、個性を武器にする表現。それはすばらしい革命だと思う。 けれど、それだけではまだ“特別”のままだ。“障害があるからすごい”ではなく、“障害があっても普通にそこにいる”社会をつくりたい。

創造的福祉のもうひとつの実験として、福祉とスケートボードを掛け合わせた。 スケートボードには、「危ない」「悪い」「不良」といったイメージがある。障害にもまた、「かわいそう」「特別」「変な人」といった偏見がある。

ふたつのバイアスの構造が、似ていると思った。

どちらも、社会のまなざしから少しはみ出した存在。だからこそ、掛け合わせてみたかった。　スケートボードは、誰かの許可を待たずに動く。街の中の段差やブロックを、自由に捉え直す。滑る。転ぶ。立ち上がる。その繰り返しの中に、「障害と生きること」が重なった。

失敗やズレが否定されず、むしろ“スタイル”になる。そこに、障害とスケートが重なる美しさを感じた。



フジモトイクヤ / テラウチハルキ







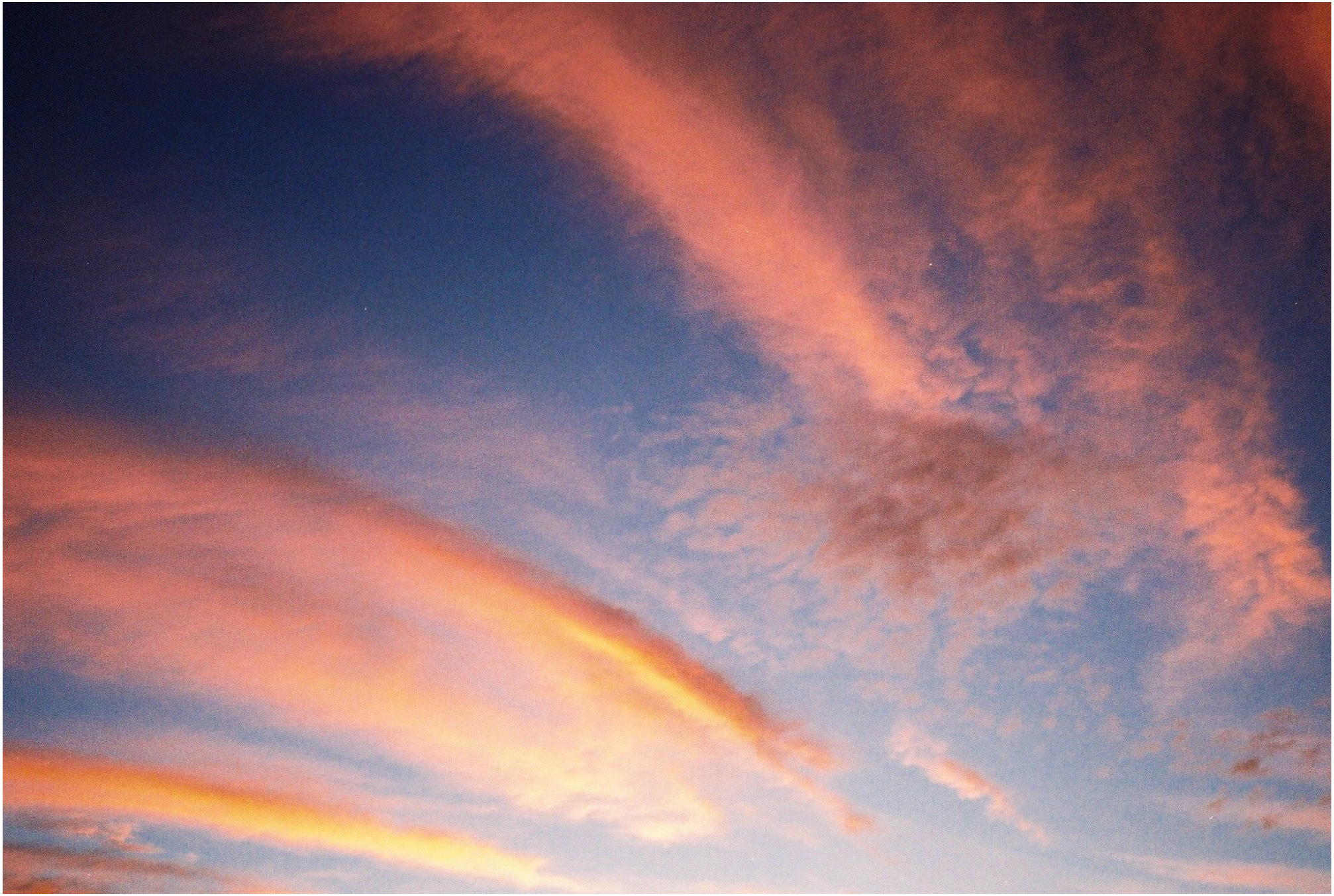
フジモトイクヤ / ワカバヤシサクラ / マツシマユウト　フォト：カワカミユウセイ



Biasが目指すのは、「選べる世界」だ。
障害がある、ないに関わらず、自分で「やりたい」「できる」を選べる社会。
そして、そこから生まれたものが還元される世界。
障害があっても、周囲が支え合い、互いに循環する仕組みを創りたい。
そのゴールは、まだはっきりとは見えない。けれど、見ているだけでは何も変わらない。
表現し、伝えることから始める。
それが、Biasの仕事だ。



カワカミコウエイ



フォト：カワカミユウセイ



フォト：カワカミユウセイ

モノとしての創造的福祉

ロゴ、フライヤー、ZINE、映像。それらのデザインを通して、「障害をどう伝えるか」「障害のイメージをどう変えるか」 という問いに向き合った。

福祉のビジュアルは、しばしば “優しさ” や “誠実さ” で語られる。けれど、それだけでは若い世代に届かない。温かく、けれど少し遠い—そんな印象を変えたかった。「考える福祉」ではなく、「感じる福祉」をどうデザインできるか。そこから制作が始まった。

まず、障害のイメージがどのように変化してきたのかを辿った。 かつての福祉は「救貧」や「保護」として、“助ける側と助けられる側” に線を引いてきた。それが「支える」「共生」「包括」へと変化し、いまは「共創」の時代へと移っている。

障害は、特別な存在ではなく、社会の一部として “共につくる” 存在へと拡張されている。その流れにフォーカスした。

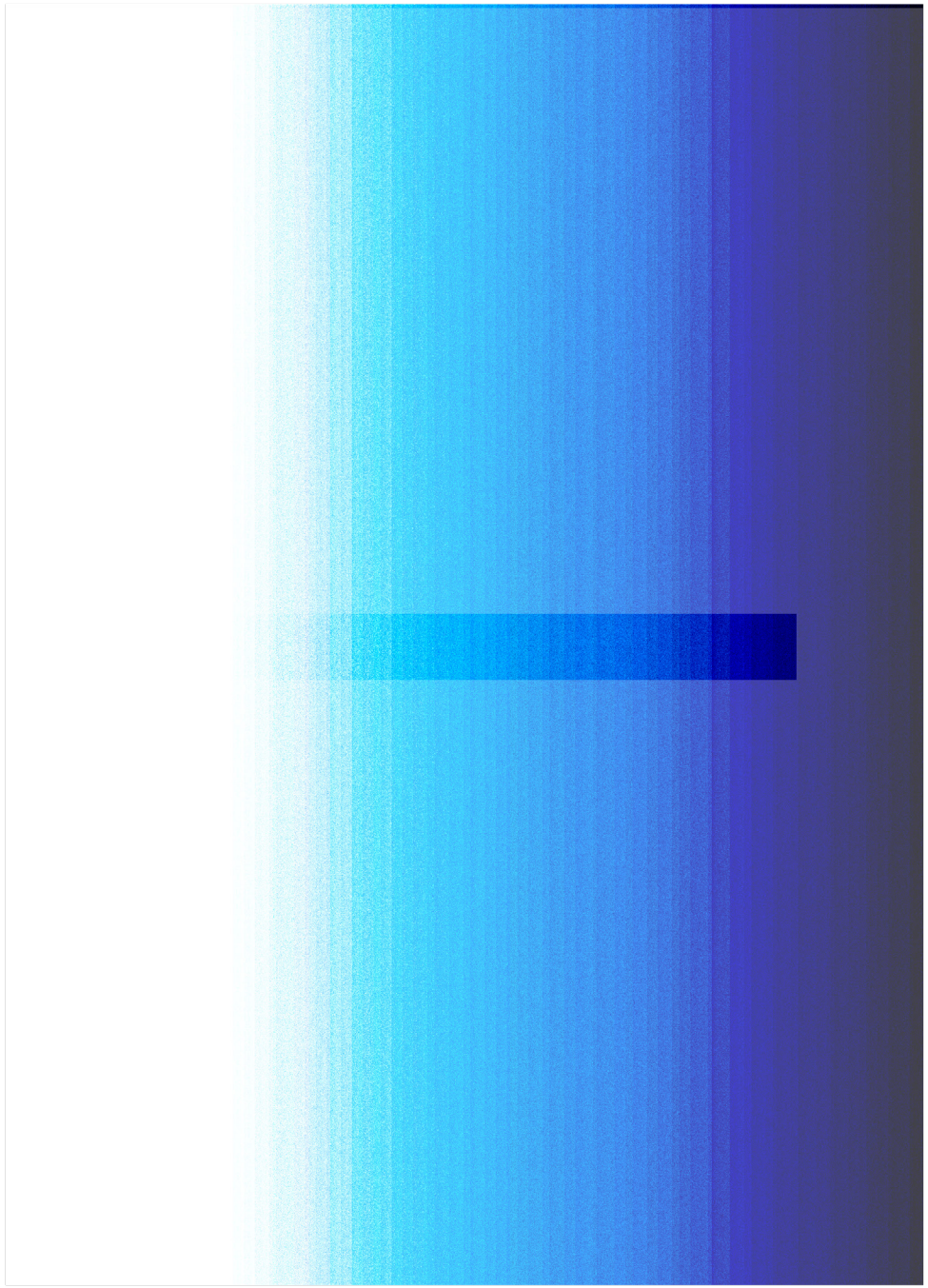
障害を特別なものとして切り離すのではなく、日常の中に “流れるもの” として捉えたいと思った。雲のように、木のように。形にとらわれず、静かに呼吸する。そんな福祉の姿を描きたかった



フォト：カワカミユウセイ



フォト：カワカミユウセイ



ビジュアルとしては、中島英樹のエディトリアルデザインに見られる抽象と静寂、 Corneliusの音楽に流れるグラデーションと余白を意識した。障害には、世の中から見た“ズレ”や“ノイズ”がある。それを欠点ではなく、美の要素として扱いたかった。完璧ではないもの。

その“不完全さ”に、美しさがある。

グラフィックでは、整った中にわずかな乱れを置いた。フライヤーの文字は、ほんの少しズラして配置する。ロゴは、シンメトリーを崩す。

その“ズレ”が、社会にある見えない段差を象徴している。完璧なデザインよりも、「揺らいでいること」を選んだ。

ロゴでは、綺麗さよりも“自然に成る”ことを美とした。障害を当たり前にするには、強いマークを掲げるよりも、日常の中に自然と溶け込む形がふさわしい。モチーフは“木”。成長や循環、季節の変化を内包する象徴として選んだ。直感だけを頼りに、線を描いた。

若い世代へのアプローチとして、服を選んだ。手作業による藍染とシルクスクリーン。均一ではない染まり、ムラや濃淡が、“人の手の温度”と“時間の跡”を残す。藍が持つ深さと、空気のような揺らぎ。その不完全さが、障害そのものを象徴しているように思えた。

フライヤーは、ミニマルなグリッドの中にズレを生む構成にした。整った中に、わずかな違和感を。見る人に「なぜ？」を残すデザイン。

それは、偏見を溶かす最初の一歩だと思った。

映像は、音と間を中心に構成した。 Corneliusのジャケットような“グラデーション”と、雲のように変化する抽象のイメージを重ねた。理屈ではなく、感覚でつくる。それがいちばん“福祉的”だと感じた。光が揺れ、ノイズが生まれ、消えていく。 その中に、障害と生きることの“感覚”を置いた。完璧さではなく、呼吸するようなグラフィック。間や余白が、観る人に考える時間を渡す。

フツウのプロモーション映像では、手話のかっこよさ、階段の重さ、静かな空気感を描いた。それは 「説明する映像」ではなく、「感じさせる空間」としての映像だった。

正しさを伝えるためではなく、問いを残すためにある。「なんでこの形なんだろう」と思ってもらうこと。その“立ち止まる一瞬”こそが、意識の転換点になる。

障害を、綺麗にするのではなく、見つめ直す。欠けていることを、否定ではなく“形”として置き換える。

Bias

フツウ

FUTUU

a bias project ショウガイヲアタリマエニ

IN MYS COFFEE

障がいがあるのは、誰かのせいでも、本人や支える人の せいでもありません。それはただ、社会が「フツウ」という枠 を狭 く 、硬く作 りすぎ ただけ。
この「フツウ」という名の枠は、知らず知らずのうちに、多様な表現や個性を押し込め、戸惑いや孤独を生み出しています。
しかし、ち が い とは 決 し て 欠 落 や 失 敗ではなく、その人だけが紡ぎだす豊 かな 光です。
このワークショップでは、当事者が自らの言葉で語り、アー トやスポーツといった多彩な表 現 を 交えながら、「自分らしさ」とは何かを共に探ります。言葉にできな い 感情も、身体の動きや創作の中で表 現さ れ 私たちはそ れ らを 尊重し 、認 め 合うことを学びます。福祉とは 単なる「助け合い」ではなく、多様な存在を丸ごと受 け 入れ、世界 の 幅を広げ る もの。
こ こ で過 ご す 時 間 は 、北 欧の言葉で「MYS（ミース）」と呼ばれ、急がず、比べず、ただ「いる」ことの価値を教えてくれます。
淹れたてのコーヒー の香りが 心 をほど き、安 心 と 温もり が満ちる 瞬 間。

あなたの中にある、言葉にしづらい 想いも、この 空間で静かに受け止められ、共感と理解へとつながっ ていくかも知れません。

企画・デザイン・登壇 BIAS

Produced.original project plannning and design and speeakerBy BIAS

ARTST
青木なつき

SPORTSPRAYER/COUNSELOR
川上航英

応募フォーム

TIMETABLE

10:00- オープニング
10:20- ディスカッション （ZINE 配布）
11:00- 体験 （非言語コミュニケーション、当事者の語り）
11:40- クロージング

place

MYS COFFEE 2025 年 9 月 10 日 水
→ 10:00-12:00
2,000 円 （1 ドリンク込）

ミースコーヒー





ユージカフェ　　フォト：カワカミユウセイ



ユージカフェ



ユージカフェ



モデル：オサカベダイチ



モデル：フジモトユイ



デザイン：ヒロカネハルト



ツクイカナタ



アーティスト：カタヤマルキア

障害を伝えることは、正しさを語ることではない。言葉にできない違和感を、形や色で置き換えていくこと
Biasは、まだ形の定まらない流れの途中にある。けれど、その“途中”こそが創造の場所だと思っている。

Bias https://www.instagram.com/us_bias/

ーキョウリョクー
ユージカフェ https://www.instagram.com/yujicafe_utsunomiya/
フラットワークス
ミースコーヒー https://www.instagram.com/315mys_coffee/

シュワツウヤクシ	オノザトヨウコ	
	ミヤユミ	
コウシ	カワカミコウエイ	https://www.instagram.com/kouei_wheelchair/
コウシ/アーティスト	アオキナツキ	
モデル	フジモトユイ	https://www.instagram.com/929112_/
	オサカベダイチ	https://www.instagram.com/os.daichii/
デザイン/モデル	ヒロカネハルト	https://www.instagram.com/192rlif/
スケーター	フジモトイクヤ	https://www.instagram.com/ikuya_4/
	テラウチハルキ	https://www.instagram.com/haruki_1121/
	ワカバヤシサクラ	https://www.instagram.com/39.cheke/
ライダー	マツシマユウト	https://www.instagram.com/yutoffer/
アーティスト	カタヤマルキア	https://www.instagram.com/__jermain____2002/
オンガクセイサク	コヌマヒロト	https://www.instagram.com/knuh.hi/
	アリマジュンペイ	https://www.instagram.com/arima_ksks/
ソノタ	コマツヒナタ	https://www.instagram.com/hina_ta1013/
	スズキカイト	https://www.instagram.com/kaichibi51/
	シゲマツタロウ	https://www.instagram.com/taro5hige/
	ツクイカナタ	https://www.instagram.com/kanadiansss/
	マツイレオ	https://www.instagram.com/ma2i0o/
フォト	カワカミユウセイ	https://www.instagram.com/yymyphoto/
セイサク	アオキナオキ	https://www.instagram.com/aokinaoki__/